

(別冊 2) 平成 30 年度 熊本市エイズ総合対策報告書

平成 30 年度 ボランティアグループとの 取り組みについて

平成 31 年 (2019 年) 4 月

熊本市保健所 感染症対策課

目次

I	熊本大学ピアカウンセリングサークル「くまぴあ」との取り組み・・・・・・・・・・	1
	(高校文化祭でのキャンペーン)	
II	ゲイ支援グループ「Safety Blanket」との取り組み・・・・・・・・・・	4

I 熊本大学ピアカウンセリングサークル「くまぴあ」との取り組み

1 概要

熊本大学ピアカウンセリングサークル「くまぴあ」の協力のもと、若い世代の行動変容に効果があるとされるピアエデュケーション（仲間教育）※の手法を取り入れ、高校文化祭でキャンペーンを行った。

また、年間を通して、くまぴあメンバーと打ち合わせや勉強会を重ねながらキャンペーンに取り組んだ。

※ピアエデュケーション（仲間教育）：同じような年代・境遇の人たちからの教育。共感を得やすく、自分のこととして考える機会を提供することができる。

2 くまぴあについて

熊本大学医学部保健学科看護学専攻、教育学部養護教諭養成課程の学生を中心としたグループ。ピアカウンセリングの手法を取り入れたワークショップ（コミュニケーション・ライフプラン・性などについて）などを通し、ピア（仲間）として高校生や大学生と一緒により良いコミュニケーションについて考えたり、エイズ・性感染症や性に関する正しい知識を伝えたりする活動を行っている。

3 高校文化祭でのピアエデュケーション（仲間教育）の手法を使った啓発キャンペーン

（1）概要

高校文化祭では、保健委員の取り組みとして参加するため、事前に保健委員への説明会と勉強会を行った。当日はできる範囲で保健委員にも答え合わせに参加してもらった。

（2）キャンペーン内容

- ①文化祭会場にて、来場者へクイズ・アンケートに答えてもらう。
- ②その答え合わせと解説を、くまぴあが行い、参加者と話しながらエイズ・性感染症について一緒に考える。
- ③啓発グッズやパンフレットをお土産に渡す。
- ④その他、会場には啓発パネルなどを掲示する。

（3）実績

くまぴあ10名が参加。高校3校3日間実施した。

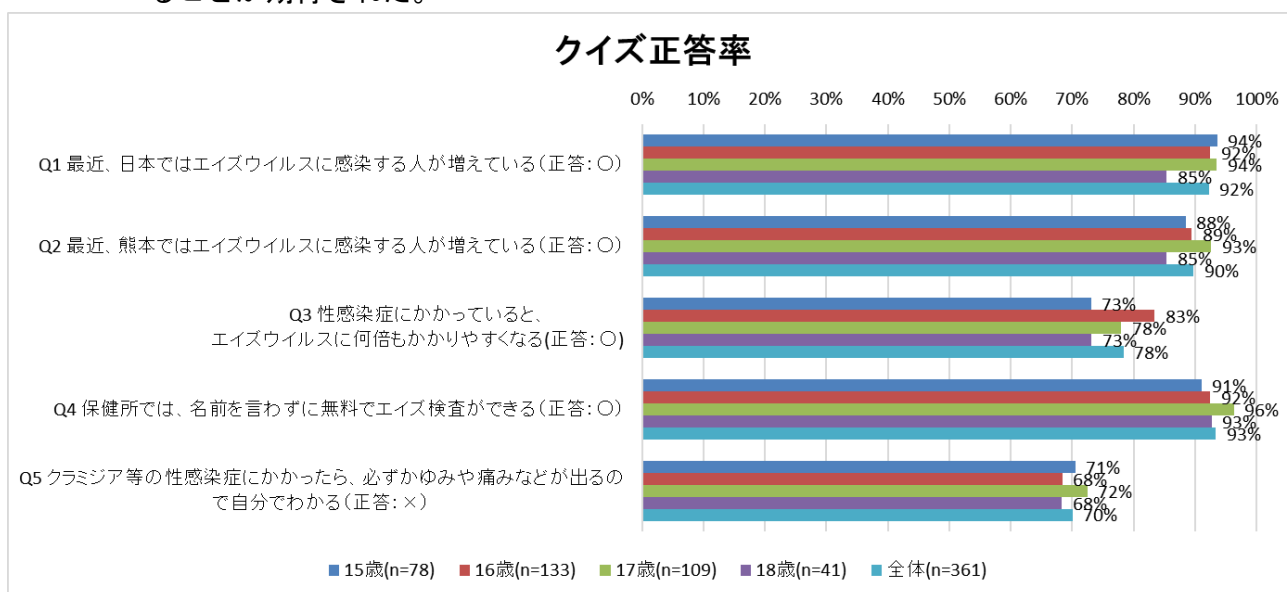
① 高校文化祭

- ・熊本県立東稜高校 9月8日（土）10：00～13：00
クイズ参加者 85人

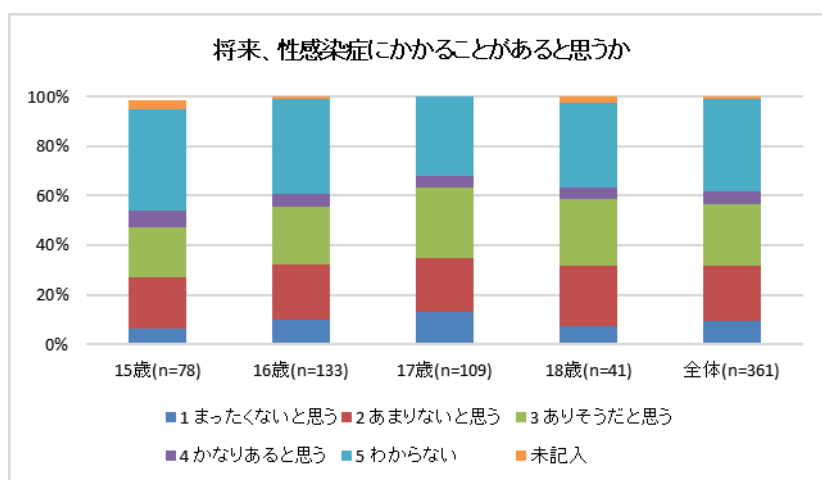
- ・ 熊本県立第一高校 9月15日(土) 10:35~14:10
クイズ参加者 157人
- ・ 熊本市立必由館高校 9月22日(土) 10:20~14:40
クイズ参加者 119人

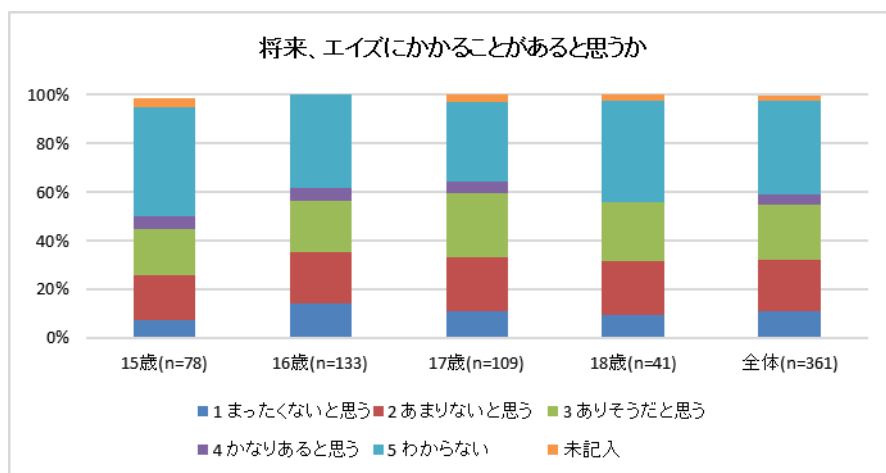
(4) クイズアンケート結果 (3校合計)

- ① 知識 エイズ・性感染症に関する5問の○×クイズを行った。エイズに関する設問の正答率は比較的高かったが、性感染症に設問の正答率が低い傾向にあった。保健所での無料 HIV 検査については、正答率が高く、知識として浸透してきていることが期待された。



- ②意識 将来自分が性感染症及びエイズに感染すると思うかについてたずねた。繰り返し、情報の提供を行っていく必要があると考えられた。





(5) 評価

ピアエデュケーションの手法を取り入れ実施することで、高校生や大学生に、エイズや性感染症について身近に考える機会を提供することができた。

また、活動に関連して、各校において保健委員が独自の企画を準備するなど工夫が見られた。活動にピアエデュケーターとして参加した大学生や高校生自身にとっても、自分の人生や伝え方について考える機会となった。

【クイズアンケート用紙】

クイズに挑戦!!

★正しいと思うものには○を、間違っていると思うものには×をつけてください★

	○ or ×
Q 1. 最近、日本ではエイズウイルスに感染する人が増えている	
Q 2. 最近、熊本ではエイズウイルスに感染する人が増えている	
Q 3. 性感染症にかかっていると、 エイズウイルスに何倍もかかりやすくなる	
Q 4. 保健所では、名前を言わずに無料でエイズ検査ができる	
Q 5. クラミジア等の性感染症にかかったら、 必ずかゆみや痛みなどが出るので自分でわかる	

★あてはまる番号に○をつけてください★

Q 1. あなたは(将来)、交際している時、自分が性感染症にかかることがあると思いますか？

1. まったくないと思う
2. あまりないと思う
3. ありそうだと思う
4. かなりあると思う
5. わからない

Q 2. あなたは(将来)、交際している時、自分がエイズにかかることがあると思いますか？

1. まったくないと思う
2. あまりないと思う
3. ありそうだと思う
4. かなりあると思う
5. わからない

★最後にあなたのことを教えてください★

性別： 男性 女性

年齢： () 歳

Ⅱ ゲイ支援グループ「Safety Blanket」との取り組み

1 背景

国内のHIV感染者・エイズ患者（日本国籍）のうち、約6割が男性同性間の性的接触による感染と多くを占めており、MSM（男性間で性行為をするものを言う、以下同じ。）への予防啓発・教育と検査の推進が急務とされている。

MSM人口は、成人男性（20～59歳）の約4.9%※といわれており、熊本市内にも複数のゲイ向け商業施設等がある。しかし、偏見や差別が存在している社会背景等や、性的指向の側面で配慮が必要なことから、これらコミュニティへの行政による積極的な介入は逆効果と言われており、本市においてもこれまで有効なアプローチ方法がなく、長年、当事者グループによる主体的な活動が望まれてきた。

※出典：H24年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」（代表市川誠一）

2 経緯

平成26年8月に、福岡のNPO「LOVE ACT FUKUOKA (LAF)」代表 牧園氏から市感染症対策課へ、「熊本で活動しているゲイ当事者によるサークル「KK」のメンバーが、行政と連絡を取ることを希望している」との連絡があった。これを受け、9月に、関係者による連絡会を開催し、協働に向けた取組みを開始した。

※グループ名は、28年2月に「KK」から「Safety Blanket」（通称「セーブ」）へ改名された。

3 Safety Blanket について

（1）構成 熊本在住の20～30代男性 5名

（2）主な取り組み

- ・コミュニティペーパーの作成及びゲイバーやイベント等での配布
- ・ブログ等インターネットを活用した情報発信
- ・当事者対象の茶話会の実施
- ・セクシュアルマイノリティ当事者として、各種研修会等での講演活動
- ・熊本市保健所とのエイズ啓発に関する取組み

4 熊本市と Safety Blanket との協働について（30年度実績）※詳細はP17～18 参照

（1）連絡会

- ・ネットワーク連絡会及び担当者連絡会議として4回実施した。
- ・ネットワーク連絡会拡大会では、熊本大学医学部附属病院エイズ診療従事者、熊本県、熊本市による今後の取組みについての意見交換や活動状況の報告を行った。
- ・担当者連絡会議は、Safety Blanket、熊本大学医学部附属病院エイズ診療従事者、

熊本市の担当者等少人数で、具体的な活動案について意見交換を行った。

- ・その他、熊本市の担当者と Safety Blanket のメンバーが連絡を取り合いながら、活動を進めた。

(2) 勉強会兼交流会

- ・ 9 月、11 月、1 月に MSM 対象の勉強会を実施し、延べ 19 人（スタッフ含む）が参加した。

(3) 検査情報等の発信

- ・ 特例検査の案内を SNS（Twitter 等）で紹介
- ・ 熊本市 HIV 検査相談のページに Safety Blanket との企画情報を掲載

(4) ゲイコミュニティへの資材提供

- ・ バーやハッテン場等へ、ポスターやチラシ、コンドーム等を提供
- ・ ゲイクラブイベントにてコンドームを配布、会場にポスターを掲示

(5) 相談室内への掲示板の設置

- ・ 熊本市保健所のエイズ相談室の掲示板に Safety Blanket の紹介などを掲示している。

5 評価

ゲイ当事者によるグループと協力し合いながら活動をすることで、ゲイコミュニティへ確実に情報を届けることができている。今後も、継続して活動を行うことが重要と考えられる。

6 平成31年度（2019年度）計画と今後の展望

- ・ これまでの取組みに加え、10代・20代の若い世代をターゲットにした情報発信のため、SNS（インスタグラム等）を活用した啓発を継続実施する。
- ・ Safety Blanket 主体の活動を行政や医療関係者が継続して支援していく。